季刊（4月・7月・10月・1月　発行）

Gifu Occupational Therapist Association News

ごったに 85号

2017年 4月

事務局：平成医療短期大学 岐阜市黒野 180
TEL＆Fax：058-234-6763
E-mail:jimu@gifu-ot.com　http://gifu-ot.com

岩砂病院・岩砂マタニティで広報部5年間担当させて頂きました。ありがとうございました！

目次

・巻頭言「新たな領域での再スタート」
・活動報告（『平成28年度学術部研修会(地域領域)』・
『平成28年度学術部研修会(老年期障害領域)』
『平成28年度学術部研修会（身体障害領域）』）
・各事業部より－地域リハ推進部の活動について
～「地域包括ケアシステム」の必要性～
・機関誌「岐阜作業療法」論文投稿について
・法人登記変更手続きにあたり会員の皆様へのお詫び
・理事の辞任についてのご報告
・私の職場の強み（NPO法人　はびりす）
・突撃！隣の作業療法士
・poco a poco の紹介
・第21回岐阜県作業療法学会参加申し込みについて

新たな領域での再スタート

公益社団法人　岐阜病院
石　田　啓　子

昨年に12年間務めた養成校を退職し、現在は、公益社団法人岐阜病院に勤務しています。一年経ちようやく業務に慣れて来たところですが、随分と臨床から離れていたことに加え、これまでは子供さんを中心に関わってきたため、精神科領域は実習以来……ということで、新鮮で驚く事の多い一年でした。

精神科特有のルール、患者様の言動の理解、対応方法等、分からないことばかりでしたが、中でも特に難しいと感じている事は、「他職種連携」「集団の利用」です。

当院では、作業療法室でのOTだけでなく、病棟ごとにOTRが配置され病棟でもOTプログラムを実施しています。これまで、回復期の病院等では聞いたことがありましたが、精神科においても病棟でのOTがある事は就職を機に知りました。OTRが一人で他職種の中に入り、朝の申し送りやプログラムについての相談、また一緒にプログラムを実施することもあるため、昔以上に他職種との連携が求められています。OTR自身が自分の評価や支援について他職種に明確に説明出来なければ、必要とされなくなってしまう……と身の引き締まる思いです。まずは、自分自身が目的を持った関りが出来るように研鑽しなければと思う毎日です。

さらに、これまでは患者様と個別で関わることが殆どであったため「集団の利用」も難しいと感じることの一つです。はじめは一度に複数の方を観察し記憶することだけでも精一杯……。一年経ち少しずつ慣れては来ましたが、プログラムの後に反省することは多く、集団を治療的に利用するにはもっと勉強が必要だと感じています。

まだまだ、悩むこと、戸惑う事も多いですが、患者様の言動の理由や関わり方、どのような活動が良いのか等を考えるのは楽しく、入職当初は「続けられるのか？」と心配になったりもしましたが、今は精神科OTをもっと勉強したい！と思っています。

有難いことに、リハビリ科には若いOTRからベテランOTR、理学療法士や音楽療法士等多くの職員がおり、様々な視点・考え方を勉強させてもらっています。また、特に若いOTRのエネルギーには、「私も頑張らなければ」と日々刺激をもらっています。

若いころのような体力はありませんが、これまでの生活経験を活かしながら、少しでも患者様の生活に役立つ関わりができるよう頑張ろうと思っています。

【平成 28 年度学術部研修会（地域領域）】

学術研修部：渋　谷　玲　二（朝日大学歯学部附属村上記念病院）
学術研修部（地域領域担当）：寺　倉　恭　子（訪問看護ステーションハーブ）

平成29年2月5日(日)【生活を豊かにするための姿勢づくり～キャスパーアプローチ】のテーマにて、NPO 法人『生活を豊かにする』障害児・者支援福祉協会　代表理事　村上潤氏を講師にお呼びし学術部研修会 (地域領域) を行いました。

場所：西美濃厚生病院　研修室　　参加者：11 名

臨床で、車椅子をご利用している方のお食事の際や日常生活での姿勢が気になり、どうにかしたいと様々なシーティングを試みている方も多いと思います。

今回は、痛さやストレスを最小限にするために試行錯誤から生まれた新しい姿勢保持の考え方キャスパーアプローチ理論をもとにお話をしていただきました。

良肢位＝ご利用者様にとって心地よい姿勢との考えを持ちがちですが、その考えを覆す視点でのお話はとても興味深かったです。詳しく知りたい方は、【生活を豊かにするための姿勢つくり】ジアース教育社からも出版物がありますのでご覧ください。

【平成 28 年度学術部研修会（老年期障害領域）】

学術研修部：渋　谷　玲　二（朝日大学歯学部附属村上記念病院）
学術研修部（老年期障害領域担当）：佐　藤　英　子（自宅）

平成29年2月12日（日）、平成医療短期大学にて学術部研修会（老年期障害領域）が行われました。参加者は 14 名でした。以下に報告をします。星城大学リハビリテーション学部の藤田高史氏をお招きして「星城大学における居宅高齢者への「認知症予防」と「転倒予防活動」の効果と課題について」という題で講義を受けました。星城大学リハビリテーション学部の学生が行っている地域貢献活動や、活動から得られた今後の課題について、藤田節を交えながらの講義でした。今回の講義を通して、私が住んでいる地域はどのような特徴（高齢化の地域と思いますが…）があるのかを知り、いざとなった時にお互いに助け合える関わりを意識して生活していく事が、大切になってくるのだと痛感しました。

【平成 28 年度学術部研修会（身体障害領域）】

学術研修部：渋　谷　玲　二（朝日大学歯学部附属村上記念病院）
学術研修部（身体障害者領域担当）：後　藤　元　久（西美濃厚生病院）

平成 29 年3月 11 日 (土)、西美濃厚生病院にて学術部研修会 (身体障害領域) が行われました。参加者は 14 名でした。以下に報告をします。

今回の研修会は講師に株式会社 Rebel Flag(EPoch)/ メディカル整体院 SpAid 院長　石原　武幸先生を招き『新人のための運動器・脳血管疾患どちらにも有効な上肢機能へのアプローチ』について講義をして頂きました。内容はどのように評価、治療を進めていくのか上肢機能の元となる、肩甲帯や肩関節の基本的な解剖・運動学から拘縮や痛みがある関節への介入方法や上肢、体幹機能の安定性を向上する方法など実技を交えて教えて頂きました。実際の患者様に対して明日から臨床でも使える内容であり、10:00 ～ 16:00 までと長い研修会ではありましたが、あっという間に時間が過ぎて行った気がします。来年度も皆さまのご参加をお待ちしています。

地域リハ推進部の活動について
～「地域包括ケアシステム」の必要性～

社会局局長　地域リハ推進部長　君　垣　義　紀
（博愛会病院）

地域リハ推進部では、いろいろな研修会を進めています。ＰＯＳ合同研修会として「地域リハ推進リーダー導入研修会」「介護予防推進リーダー導入研修会」「地域リハ推進リーダー導入研修会アドバンスコース」「介護予防推進リーダー導入研修会アドバンスコース」。ＭＴＤＬＰでは「基礎研修」、「事例検討会」。認知症関連においては「認知症初期集中支援研修会」。介護予防関連においては「介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会」。伝達講習会として「地域ケア会議に資する人材育成研修会」を行ってきました。いずれにおいても、日本作業療法士協会においては必要不可欠な研修会となっています。

現在の医療介護業界における大きなキーワードとなる「地域包括ケアシステム」があります。日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65 歳以上の人口は、現在 3,000 万人を超えており（国民の約４人に１人）、2042 年の約 3,900 万人でピークを迎え、その後も、75 歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代（約 800 万人）が 75 歳以上となる 2025 年（平成 37 年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。このため、厚生労働省においては、2025 年（平成 37 年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

そのため、国や県や市町村においては、私たち療法士への期待は非常に高く求められており、各士会においても早急に派遣できるスタッフの確保や人材育成が急務となっています。なかでも「認知症初期集中支援」においては、平成 30 年までにはすべての市町村で開始します。スタッフ人員の中に「作業療法士」も対象となっていることもあり、ここでしっかりと対応できるかどうかによって今後の県内での作業療法士の必要性を問われるかもしれません。

みなさんも日ごろの臨床で忙しいとは思いますが、病院や施設だけでの業務にとらわれず、生活活動の範囲の拡大、地域生活での活躍の場を作れる職の一人として、「地域包括ケアシステム」の理解と重要性を考えていただきたいと思います。また、来年度の研修会にも皆さんの参加をお待ちしております。

機関誌「岐阜作業療法」論文投稿について

いつもお世話になっております。岐阜県作業療法士会、機関誌編集部の石川です。先日、会員の皆様のお手元に「岐阜作業療法」第19巻が届いたと思います。すでにご覧いただいていますでしょうか？

さて、今年度も「岐阜作業療法」発行に向け、会員の皆様からの論文投稿をお待ちしております。臨床での経験や実践、研究を行った内容などを論文として投稿し、岐阜県の作業療法発展にお力添えをいただけると幸いです。

投稿をお考えの方がいましたら、機関誌編集部、石川までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

岐阜県作業療法士会　機関誌編集部
医療法人和光会　リハビリテーション部内
担当：石川真太郎
E-mail：s-ishikawa@wakokai.or.jp
TEL：058-254-1411（代表）

法人登記変更手続きにあたり会員の皆様へのお詫び

平成 23 年より一般社団法人が設立され５年が経過しました。この度、法人設立以来、初めての代表理事（会長）交代のため、法務局へ法人登記手続きの確認をしました。本来であれば、役員交代の度に法人登記変更届を法務局に提出することになっておりましたが、代表理事のみならず理事交代の都度、手続きが必要であった旨を指摘され、誤った認識をしておりました点に気付きました。そこで、速やかに過去にさかのぼって手続き資料を作成、登記手続きを進め、２月にようやく手続きが完了しました。

今後、登記不備による過料（罰金）が科せられる可能性がございますので、ここに報告し、理事一同こころより深謝するものであります。今後、このような事態を招かぬため、事務局内での業務強化、マニュアル作成等行い、再発予防に努めてまいりたいと思っております。

この度は、会員の皆様へもご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

理事の辞任についてのご報告

平成 28 年度、地方局東濃圏域担当である喜久本朝矢氏（元中津川市民病院）が当士会を退会され、任期途中ではございますが、９月 30 日をもって理事を辞任となりました。

本来であれば、理事の辞任にあたっては、速やかに皆様にご報告申し上げるべきところではございましたが、報告が遅れまして申し訳ありませんでした。

現在、地方局東濃圏域担当は、鈴木隆史氏（中津川市民病院）に担当代理を依頼し、ご承諾いただきましたので、ご報告申し上げます。

私の職場の強み

第３回

住所：岐阜県大垣市内原１丁目１６８番地１
電話：０５８４-８４－３８００
HP：https://npohabilis.com

NPO 法人はびりす

私達は病院に勤務していた時、こどもの「障害」を減らし、家族の問題を解決することに一生懸命でした。今年１月に有志が集い、起業して、地域に飛び出しました。今、私たちは、子どもと家族の自己実現を可能にするハビリテーションに夢中です。

はびりすの強みは、自由に作業療法が追求できることです。この法人のミッションは、「障がいの有無や程度に関わらず、こどもたちの GIFT（才能）を最大化すること」です。一人一人の幸福を実現するために、ご家族と一緒に未来をデザインすることからはじめ、「なりたい自分になっていく」作業を展開し、発展させていきます。

この職場の良さは「フィロソフィー」にあります。私たちは作業療法士という健康ビジネスに誇りを持つために、まずは私たち療法士が変わります。心身のメンテナンスや食養生を怠らず、余暇も楽しみ、仕事に対してスーパーポジティヴに取り組むことで、私たちスタッフがクライアントの健康モデルとなることが重要な任務です。私たちが進化した分だけ、ご家族にも進化を求めます。保護者の心身機能を評価し、ホームプログラムを通して保護者自身にも目標志向的な課題に取り組んでもらいます。最後、家族が変化したぶんだけこどもに変化を求めます。強みの強化や弱みの治療、芽生えの拡大や環境の工夫、代償や方向転換など全人的なアプローチを行います。どんな手を使ってでも人生の健康イノベーションを起こします。

レポーター
サンバ OT いは

４月からは、未来への生き残りをかけた新たな戦いをはじめます。制度に頼らなくても自立できる作業療法士を目指し、自費の発達教室を開講します。

・視能訓練士と OT のコラボ	目と学習の教室
・コアを鍛えぬく	ボクシング教室
・下肢からの発達に特化した	アスリート教室
・親子の相互作用を開花する	さをり教室
・特性を個性に変える	アート教室
・心身を開放する	サンバ教室

Yes!! We are GIFTED!!　はびりすに乞うご期待 !!

第５回
突撃となりの作業療法士

医療法人社団　大誠会
訪問看護ステーションハーブ
寺倉恭子先生からのご紹介

私にとってのOTとは

渋　谷　玲　二

手段的ADL（IADL）を拡大する手段とは!?

平成16年3月　豊田学園医療福祉専門学校卒業
平成16年4月　医療法人(社団)大和会
　　日下病院（三重県いなべ市）就職
平成17年3月　医療法人(社団)大和会
　　日下病院（三重県いなべ市）退職
平成17年4月　中濃厚生病院就職
平成26年3月　中濃厚生病院退職
平成26年4月　朝日大学歯学部附属村上記念病院就職

私は、現在の職場に就職する前は、身障領域を対象とする急性期病院に勤務していました。そこでは、身体機能の向上を目指して機能訓練や ADL 訓練を行い、特に整形外科疾患に興味があった為、そちらの勉強ばかりしていた記憶があります。現在の職場に転職して３年が経ちますが、回復期リハ病棟の勤務となり、対象者の ADL 向上はもとより、これまであまり興味のなかった（小声）、IADL の拡大に向けて路線変更し始めています。さらに、生活行為向上マネジメントも普及してきた時期であった為、対象者それぞれの生活背景に基づく介入を強く意識するようになりました。しかし、作業療法士として働く皆さんの職場環境によって実施可能な IADL の内容が大きく違っているとも思われます。私の職場でも、やりたい活動があるけど環境が限られている為、できない IADL がたくさんあります。それを拡大するために、多職種連携という手段を持って今後も取り組んでいきたいです。

poco a poco
ポコ ア ポコ

印刷：㈲ いすくら

長年「ごったに」の印刷でお世話になっている『印刷会社㈲いすくら』のもう一つの顔で村瀬さんが代表を務める音楽グループの自己紹介です。

第７回
poco a poco（ポコ ア ポコ）

“poco a poco”という音楽グループです。オカリナ３名、ギター２名、一五一会1名の６名で編成されています。2005年に脳梗塞を発症した村瀬充男（当時54歳）が立ち上げ、月1回程度、病院、老人施設、障害者団体等で演奏してきました。村瀬は病気の後遺症で左半身麻痺ですが、残された機能を使って何かできないか、社会復帰の一助にならないかと考え、片手で演奏できるオカリナを特注して取り組んできました。学業との兼ね合いで当初の学生の参加が難しくなり、現在のメンバーで活動をしています。叙情歌、童謡ばかりでなく、映画音楽、ＰＯＰＳ、歌謡曲、易しいクラシックなどにも挑戦して、いろんな状況に対応できるよう練習しています。誰でもが高齢になり、まして病気になったりするとどんどん社会と疎遠になり、人間関係も狭まってしまいがちです。生きている限りできることはあるはずです。

“poco a poco”はイタリア語の音楽用語で「少しずつ」という意味です。焦らずに、楽しみや生き甲斐を求めることを諦めずに少しずつゆっくりと頑張っていきたい。（文責：村瀬充男）

連絡先 TEL.058-229-6091　E-mail　pocoapoco@pony.ocn.ne.jp

第 21 回岐阜県作業療法学会参加申し込みについて

本学会は、原則事前参加申し込みとさせていただきます。

事前申し込み期間は４月１日(土)～５月５日(金)です。スムーズな学会運営のため、５月５日までの参加申し込みにご協力ください。また、岐阜県作業療法士会未入会の方は日本作業療法士協会並びに岐阜県作業療法士会へ入会手続きを行った上、学会参加申し込みをお願いいたします。詳細は、同封の学会誌を参照してください。

【事前参加申し込み方法】

① パソコンで下記ＵＲＬを入力するか岐阜県作業療法士会ホームページから学会専用ホームページへアクセスし学会参加申し込みメールフォームをご利用下さい。

② 携帯電話（ＱＲコード利用可能なもの）より、下記ＱＲコードを読み取り学会参加申し込みメールフォームをご利用下さい。

＊ＵＲＬ：http://gifuot.sakura.ne.jp/

平成29年４月16日現在　岐阜県作業療法士会会員数494名(休会者を含む)
所属施設数者　144施設

岐阜県作業療法士会ニュース

「ごったに」編集：岐阜県作業療法士会（広報部）

岐阜中央病院　リハビリテーション療法課　作業療法室
〒501-1198　岐阜市川部３丁目 25 番地
TEL. 058-239-8111　FAX. 058-239-8216

山田病院　リハビリテーション科　作業療法室
〒501-0104　岐阜市寺田７丁目 110 番地
TEL. 058-254-1411　FAX. 058-254-1413

【編集後記】

岩砂病院・岩砂マタニティは５年間ごったにの広報部員を務めさせて頂きましたが、昨年度をもって山田病院に引き継ぐことになりました。記事を書く中で、様々な人と出会い、様々なお話を聞けたことはとても良い経験となりました。今年度からは一読者としてごったにがより様々な情報を提供していけることを期待しています。岐阜中央病院広報部の皆様、記事の執筆・取材にご協力いただいた皆様、そしてこの文章を読んでくださっている皆様、本当にありがとうございました。　　岩砂病院・岩砂マタニティ広報部員一同